

セメントのパイオニア

# 小野田セメントとセメント建築

in 住吉本町

明治 8 年 (1875 年) に近代化に向けて始動したセメント産業。日本最初の製造工場はもちろん官営でしたが、明治 14 年、ここ小野田の地に初の民営セメント製造会社が設立されました。後に社名変更により改称された小野田セメントであり、現在は他のセメント会社と合併を重ねて太平洋セメントという会社になっています。

小野田セメントの創業者は、山陽小野田市民の誰もが知っている笠井順八です。彼の像や頌徳碑は小野田中学校の近くにある「笠井順八記念エリア」にあります。当時は笠井順八の私邸だったところです。そのエリアの一角にある住吉神社は、今でも太平洋セメントの鎮守社となっています。その神社の隣りにある「山手俱楽部」は大正 3 年 (1914 年) に建てられた小野田セメントの社交クラブでした。

ちなみに、今も住吉神社の境内にある松林は江戸時代には藩有林だったそうです。ですから、この住吉本町地区に古くは幕末から令和まで 150 年以上の歴史があるということに驚かされます。

そして「山手俱楽部」は順八の次男、笠井真三が国産コンクリートブロックを使って建てました。このブロックは彼がドイツ留学の帰りにイギリス製のコンクリートブロックの型枠を持ち帰り、研究を重ねて作ったものです。続いて真三は「山手俱楽部」の敷地内に別館を建てて自宅として使用し、「山手俱楽部」の向かい側に会社重役の社宅も建てました。社宅は大正 13 年に完成。ちょうど今から 100 年前の建築です。

筆者が山陽小野田市に引っ越してきた時 (平成 9 年)、その社宅は 5 棟あって空き家だったと記憶しています。何年かして、そのうちの 4 棟が解体されてさら地になっていましたが、平成 23 年 (2011 年) に「グループホーム いつは」という介護施設ができました。また 1 棟だけ残った社宅は「龍遊館」という名前のコミュニティセンターとなって、明るく閑静な

住宅地の雰囲気を作り出しています。

さらにもう一つ、その施設の近くに大正時代のセメント建築があります。その建物はもともとは小野田銀行の行舎で、その銀行も笠井順八が創設、20年間頭取を務めました。跡を継いだ長男の建次郎が2代目の頭取となりましたが、大正12年、県下銀行の大合同という政策で百十銀行（現山口銀行）と合併し、今では山口銀行小野田支店の倉庫として使用されているそうです。

歴史的な建造物を解体するのは、現代の技術をもってすれば、いとも簡単なことです。しかし、それを保存管理するとなると、その何十倍、何百倍も難しいと思います。「山手俱楽部」は国登録有形文化財に、「龍遊館」は近代化産業遺産（経済産業省）に認定されていますが、現実に保存のための費用や時間や労力をかけて運営しているのは、それを所有する会社や民間団体なのです。

今回は特に民間の保存会によって保存、維持されている龍遊館の活動を紹介したいと思います。

平成18年（2006年）に、まちづくり市民会議「太平洋セメント住宅社宅」部会から、当時の市長さんにセメント社宅を活用することを提案し、「セメント住吉社宅保存会」を立ち上げることになりました。中心となったのは工業高校の教師だった瀬口孝典さん。会は正会員80人ほど（年会費¥2000）と実働されてる役員10人ほどで構成され、毎月、役員会が開かれて、外



山手俱楽部



龍遊館



山口銀行小野田支店倉庫



旧笠井順八邸 灯籠



龍遊館のルームレンタルの様子

邸の整備の後、事業計画の進捗状況や経営状況などが話し合われています。

開館当初は応接間をリフォームした喫茶室をオープンしましたが、諸事情により現在はルームレンタル（貸室）が中心になっています。広い二間続きの和室、小さめの和室、洋室があって、午前、午後、夜間と、どの時間帯でもレンタル料は￥1000です。キッチン付き洋室は飲食物の持ち込みOKなので、少人数のお茶会、お食事会も可能です。1月のスケジュール表を見ると、お茶会のほか、音楽や英語や書道、手話やヨガ、百歳体操など13ほどのサークルや個人がレンタルの予約をしていました。

変わったところでは、市内在住のピアノの調律師さんが、ピアノ（ピアノの名前はフェリーチェ）を龍遊館に寄贈されていて、1回30分～1時間／料金￥200～500で、自由にピアノが弾くことができます。必要に応じてピアノの弾き方のサポートも受けられます。対象は赤ちゃんから年配の方まで、どなたでも。

それと、龍遊館のお隣りの「グループホーム いつは」では駐車場を使って、奇数月に1度「住吉マルシェ」というフリーマーケットが開かれています。

インターネットの普及で、博物館はどこも来館者が減っているそうです。ただ展示しているだけでは、現代人のニーズには応えられないのかもしれません。けれども文化遺産を活用していくことで、その遺産が写真や映像でのみ保存されるという事態を防ぐことができるのだなと思いました。

住吉本町の歴史を調べて、100年以上昔のセメント建築物が、今も建っていて、見て触れられる「ぜいたく」を実感しました。

萩や宇部や下関、山口のように大きな市ではなくても、小野田には小野田らしいセメントの歴史が、これからも大切に守られていますように。

\*令和4年に閉店した「つねまつ菓子舗」の銘菓「せめんだる」は、登録商標を小野田商工会議所で買い取り、令和6年4月より、厚狭の食パン専門店『安都佐（あづさ）』にて改良を重ね、新たなお菓子として生まれ変わり、販売されています。

\*「山手俱楽部」は現在、一般には非公開。年に一度の住吉祭りの日のみ一般公開されています。

（文：まっし・写真：山田幸司／山手俱楽部と龍遊館はHPより）